

CentreCOM®
WR211AP

ユーザーマニュアル

©2000 アライドテレシス株式会社

PN J613-M7034-00 Rev.B 000529

安全のために



必ずお守りください



警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときはさわらない

異物はいれない 水は禁物

火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。(当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。)



異物厳禁

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。



設置場所注意

交流 100V の電源でお使いください

異なる電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。



電圧注意

付属の AC アダプター以外で使用しない

火災や感電の原因となります。
必ず、付属の AC アダプターを使用してください



付属品を使用

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。



たこ足禁止

ACアダプターのコードを傷つけない

火災や感電の原因となります。



傷つけない

設置・移動のときは電源プラグを抜く

感電の原因となります。



プラグを抜く

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度80%以下の環境でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、ジュタンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所



静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクターの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。



取り扱いはいないに

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えないでください。



お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。



機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、強く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。



ぬらすな



中性洗剤
使用



強く絞る
使用

お手入れには次のものは使わないでください

・石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん
（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）



シンナー
類不可

はじめに

この度は、「CentreCOM WR211AP」無線 LAN 用アクセスポイントをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。このマニュアルは、本製品を正しくご利用いただくための手引きです。必要に応じていつでもご覧いただくために、保証書とともに大切に保管くださいますようお願いいたします。

内容物をご確認ください

本製品パッケージの内容は、下記の通りです（下記以外に添付紙が同梱されている場合があります）。お買い上げ商品についてご確認ください。万一不足するものがございましたら、お手数ですが、弊社サポートセンターまでご連絡ください。

- CentreCOM WR211AP 本体
- AC アダプター
- 壁掛け用取り付け金具
- ゴム足（4 個）
- ユーザーマニュアル
- 製品保証書（3 年保証）
- お客様インフォメーション登録カード
- シリアル番号ラベル
- 電波干渉注意ラベル

本製品の最新情報

本製品に関する最新情報（ファームウェアのバージョンアップ情報など）は、弊社のホームページでお知らせします。無線 LAN に関する情報や活用例などもご紹介しておりますので、是非、弊社のホームページをご覧ください。

弊社のホームページ <http://www.allied-teleasis.co.jp/>

電波に関する注意

本製品を下記のような状況でご使用になることはおやめください。また設置の前に、「安全のために」を必ずお読みください。

- 心臓ペースメーカーに電磁妨害を及ぼす可能性があります。本製品を使用する前に、電磁妨害が発生しないことを十分に確認した上で、ご使用ください。
- 医療機器に電磁妨害を及ぼす可能性があります。本製品を使用する前に、電磁妨害が発生しないことを十分に確認した上で、ご使用ください。
- 電子レンジの近くで、本製品をご使用にならないでください。電子レンジによって、本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか工場の製造ラインで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

- 1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
- 2 万が一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、弊社サポートセンターにご連絡頂き、混信回避のための処置等についてご相談して下さい。
- 3 その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、弊社サポートセンターにお問い合わせ下さい。

目次

1 概要	6	5.4 正常に動作しない	23
1.1 特長	6	5.5 無線 LAN 通信ができなくなった	23
1.2 ネットワーク構成例	6	5.6 本製品にアクセスできない	23
1.3 各部の名称と働き	7	5.6.1 パスワードを忘れてしまい、本製品にアクセスできない	23
1.4 本製品の設置と接続	8	5.6.2 本製品の IP アドレスを忘れてしまい、アクセスできない	23
1.4.1 設置時の注意	8	A 付録	24
1.4.2 壁への取り付け	8	A.1 製品仕様	24
1.4.3 本製品の接続	9	A.2 MAC アドレス	24
2 本製品の設定	9	B TERMINALポートからの設定	24
2.1 コンピュータの設定	9	B.1 用意するもの	24
2.2 WEB からの設定変更	10	B.2 本製品とコンピュータの接続	24
2.2.1 基本設定の変更	10	B.3 ターミナルソフトの設定と起動	25
2.2.2 暗号の設定	11	B.4 本製品の設定	26
2.2.3 パスワードの設定	13	B.4.1 情報表示	26
2.2.4 設定終了	13	B.4.2 設定変更	27
3 無線 LAN カードの設定	14	B.4.3 設定終了	28
3.1 設定を変更する前に	14	C 用語集	28
3.2 「Configuration Utility」による設定変更	14	C.1 本製品の設定に関する用語	28
3.2.1 基本設定	14	C.2 ネットワーク関連の用語	29
3.2.2 「暗号」の設定	15	D 保証	29
3.3 コンピュータの「ネットワーク」設定	16	E ユーザーサポート	29
3.4 ネットワーク接続の確認	16	E.1 調査依頼書のご記入にあたって	29
3.4.1 アクセスポイントの通信状態の確認	16	E.2 システムレポートの出力方法	30
3.4.2 無線 LAN カードの接続情報の確認	17	E.3 最新ファームウェアの入手方法	30
3.4.3 「ネットワークコンピュータ」から確認	18	F ご注意	30
3.4.4 「Ping」で接続を確認	18	G 商標について	30
4 設定管理ツールの詳細説明	19	H マニュアルバージョン	30
4.1 起動方法	19		
4.2 AP 情報	19		
4.3 通信状態	20		
4.4 設定	20		
4.4.1 AP 設定	20		
4.4.2 パスワード	20		
4.4.3 ファームウェア	20		
4.4.4 リセット	21		
5 トラブルシューティング	21		
5.1 設定画面が表示されない	21		
5.1.1 有線側のコンピュータと接続できない	21		
5.1.2 設定画面が表示されない	21		
5.2 無線 LAN カードを付けたコンピュータと接続できない	22		
5.2.1 無線 LAN カードのドライバーが正しくインストールされていない	22		
5.2.2 無線 LAN カードとアクセスポイントの設定が合っていない	22		
5.3 「ネットワークコンピュータ」に他のコンピュータが表示されない	23		

1 概要

1.1 特長

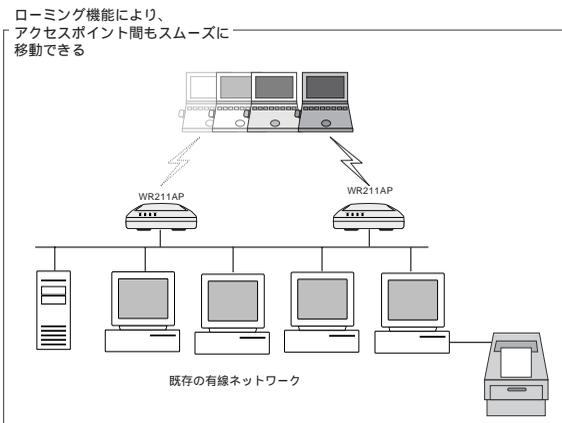
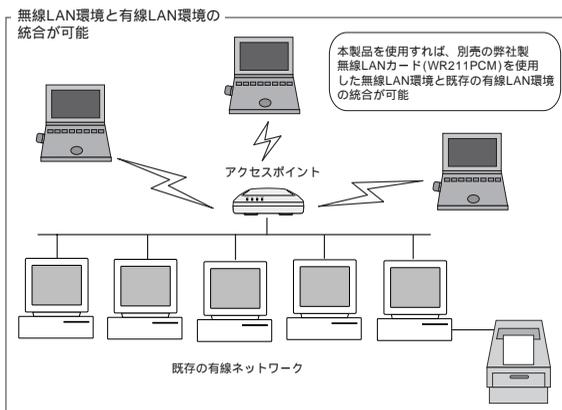
CentreCOM WR211AP (以下、「WR211AP」と略します) は以下の特長をもつ無線用アクセスポイントです。

- ・別売の無線 LAN 用カード (CentreCOM WR211PCM) と一緒に使用すると、既存の有線 LAN 環境と無線 LAN 環境を統一したネットワークの構築が可能
- ・2.4GHz 帯の小電力通信システムを使用しているため無線免許が不要
- ・直接拡散変復調によるスペクトラム拡散方式 (DS-SS) の採用によりノイズにも強い
- ・IEEE802.11b に準拠し、無線上での通信速度 11Mbps の通信が可能

- ・通信可能距離は、屋外 150m/ 屋内 50m (送信速度 11Mbps 時には、屋外 60m/ 屋内 30m)
- ・1 ~ 14チャンネルを切り替えて使用することができるので、チャンネルごとのワークグループの設定も可能
- ・WEP 方式による暗号化機能と SSID によるグループ識別機能で二重のセキュリティ対策
- ・良好な通信状態を得られるように、2種類のアンテナを内蔵し、通信状況に応じて切り替えて使用
- ・本製品の通信状態の監視・制御、または設定の変更・確認が遠隔操作で可能 (有線側からも無線側からも可能)
- ・動作状態を表示する LED を装備
- ・専用取り付け金具を使用すれば、壁掛け設置も可能

1.2 ネットワーク構成例

本製品を使用したネットワーク構成例を次に示します。



1.3 各部の名称と働き

図 1.3.0.1 - 図 1.3.0.3 をもとに各部の名称と働きを説明します。

POWER LED

電源が正常に供給されている時に、橙色で点灯します。

TX LED

無線側にてデータを送信している時に、緑色で点灯します。

RX LED

有線側からデータを受信している時に、橙色で点灯します。

ALARM LED

本製品に異常が発生した場合に、赤色で点灯します。

10BASE-T ポート

10BASE-T の UTP ケーブルを接続するためのコネクタです。

TERMINAL ポート

RS-232 クロスケーブルを接続するためのコネクタです。コンピュータと接続し、本製品の設定変更やファームウェアのダウンロードなどを行います。

DC ジャック

AC アダプターの DC プラグを接続するためのコネクタです。

壁掛け金具取り付け溝

壁掛け用取り付け金具を使用して、本製品を壁に取り付ける場合は、この溝に、取り付け金具の引っかけ部分を差し込みます。取り付け方の詳細は、「1.4.2 壁への取り付け」(p.8)を参照してください。

警告ラベル

本製品を安全にご使用いただくために重要な情報が記載されています。必ずお読みください。

シリアル番号ラベル

本製品のシリアル番号(製造番号)とリビジョンが記入されています。同じものが、3 枚同梱されており、パッケージ(外箱)にも貼付されています。同梱されているシリアル番号ラベルは、「製品保証書」に貼付してください(残る 2 枚は予備です)。シリアル番号とリビジョンは、ユーザーサポートへ問い合わせをする時に必要な情報です。

MAC アドレスラベル

本製品の MAC アドレスが記入されています。MAC アドレスについては、「A.2 MAC アドレス」(p.24)をご覧ください。

上面

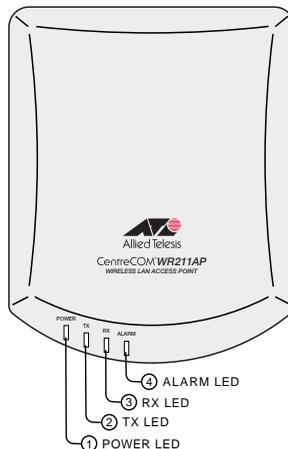


図 1.3.0.1 WR211AP 外觀図(上面)

背面

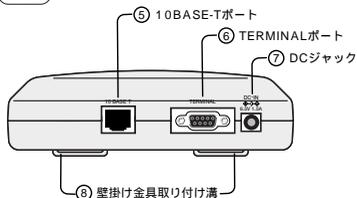


図 1.3.0.2 WR211AP 外觀図(背面)

裏面

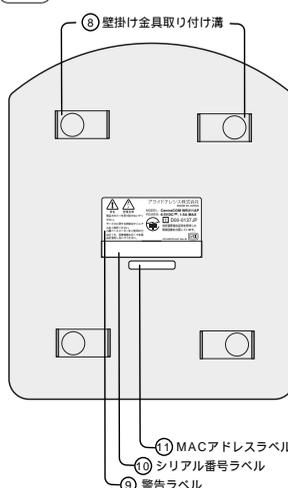


図 1.3.0.3 WR211AP 外觀図(裏面)

本製品に内蔵されている無線設備には、記号が表示されています。この表示は、次の内容を意味します。

使用周波数帯域	2.4GHz 帯
変調方式	DS-SS 方式
想定干渉距離	20m 以下
周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ「構内局」あるいは「特小局」帯域を回避可能

想定干渉距離とは、「構内局」または「特小局」との電波干渉が想定される距離です。これは、本製品の通信可能距離とは異なります。

1.4 本製品の設置と接続

1.4.1 設置時の注意

本製品を設置する前に、「安全のために」(p.2)、「電波に関する注意」(p.4)を必ずお読みください。無線通信を行うアクセスポイントは、無線 LAN カードを取り付けたコンピュータから見通せる位置に設置してください。本製品のサービスエリアは、屋外で 150m、屋内で 50m (11Mbps 通信時は、屋外 60m、屋内 30m) になります。



注意

コネクタの端子にはさわらないでください。静電気を帯びた手(体)でコネクタの端子に触れると、静電気の放電により故障の原因となります。



注意

本体の上には、物を置かないでください。本製品の上部にはアンテナが内蔵されています。本体の上に物を置いたりすると、電波状態や通信状態に影響を与える場合があります。

1.4.2 壁への取り付け

同梱されている壁掛け用取り付け金具を使用すると、本製品を壁などに取り付け使用することができます。取り付け手順は次の通りです。

(1) 次の点を考慮して、本製品を設置する場所と、取り付ける方向を決めてください。

- UTP ケーブルおよび AC アダプターの接続が可能であること。
- 本体上面にある、LED の表示が監視できること。

(2) 本製品を取り付ける位置が決まったら、壁掛け金具を木ネジで壁に取り付けます。木ネジは、取り付ける壁面に適したものを使用してください。取り付け金具は、次の図に示した方向で取り付けます。

壁が柔らかくネジがたたない場合は、プラスチックアンカーを使用するなど工夫してください。

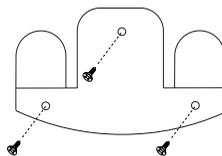


図 1.4.2.1 取り付け金具の取り付け方向

(3) 壁掛け金具の引っ張っている部分に、本製品裏面にある溝を引っかけます。



図 1.4.2.2 壁掛け金具に本製品を引っかける

(4) 製品を取り付ける方向は、次の図に示すように、上向き / 下向きどちらにも対応できます。



図 1.4.2.3 LED を下にして取り付けた場合(左)と上にして取り付けた場合(右)



注意

高所に取り付ける際には、特に注意して、確実に壁に固定してください。固定が不十分な場合、落下による怪我や、本製品が破損するおそれがあります。



注意

取り付け面の状態、取り付けネジによっては、十分な取り付け強度を得られないことがあります。機器およびケーブルの重みによって本製品が落下しないよう、確実に、取り付け・設置を行ってください。怪我や本製品の破損の原因になることがあります。



注意

振動・衝撃の多い場所や、不安定な場所には設置しないでください。落下による怪我や、本製品の故障の原因になることがあります。



注意

取り付け面によっては、本製品の設置の際に、被着面の塗装などに傷が付く場合があります。

1.4.3 本製品の接続

次の手順に従って、本製品を有線 LAN に接続します。

- (1) 本体背面の 10BASE-T ポートに、UTP ストレートケーブルの RJ45 コネクタを接続します。
- (2) ケーブルのもう一方のコネクタを有線 LAN に接続します。「図 1.4.3.1 接続例」では、ハブまたはスイッチのポートに接続しています。(ハブまたはスイッチのカスケードポートには接続しないでください。)
- (3) AC アダプターの DC プラグを、本製品背面の DC ジャックに差し込んでから、AC プラグをコンセントに接続します。
- (4) 本製品前面の POWER LED が点灯していることを確認します。ハブまたはスイッチと接続した場合は、接続したポートの LINK LED が点灯していることを確認します。

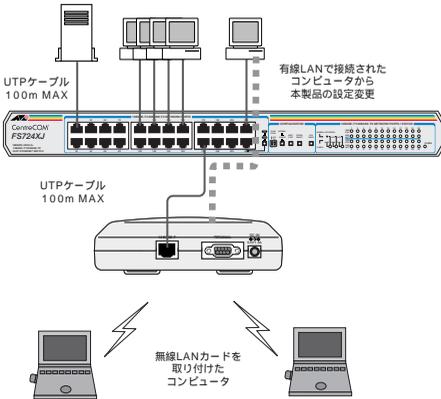


図 1.4.3.1 接続例

2 本製品の設定

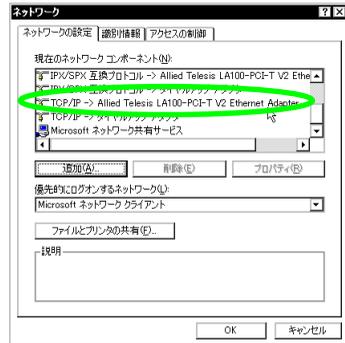
本製品の設定は、WEB 上で行うことができます。有線 LAN によって本製品に接続されたコンピュータから、本製品にアクセスして設定を変更します。

ここでは、有線 LAN 側のコンピュータからの設定例について説明しますが、無線 LAN 側のコンピュータからの設定も可能となります。

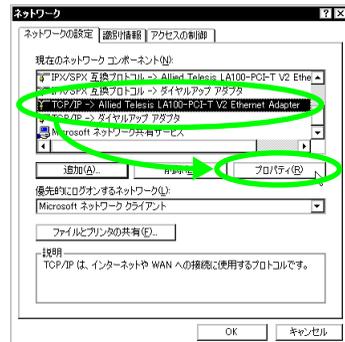
2.1 コンピュータの設定

本製品の設定変更を行うコンピュータの、IP アドレスを変更します。

- (1) 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」「コントロールパネル」を選択します。
- (2) 「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
- (3) 「ネットワークの設定」タブの、「現在のネットワークコンポーネント」に「TCP/IP プロトコル」(TCP/IP ご使用の LAN アダプター)が表示されていることを確認します。



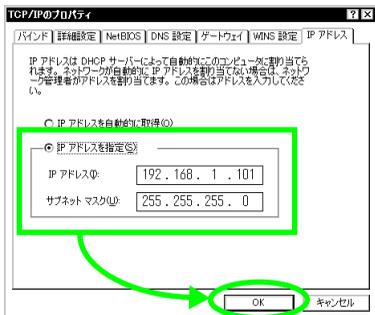
- (4) 「TCP/IP プロトコル」をクリックし、「プロパティ」ボタンをクリックします。



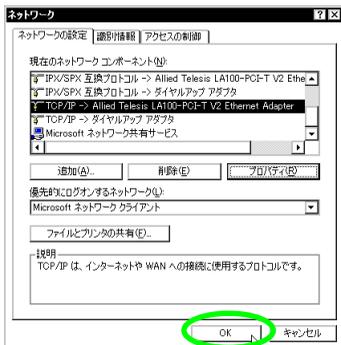
- (5) 「IP アドレス」タブで、「IP アドレスを指定」をクリックし、「IP アドレス」と「サブネットマスク」に値を入力し、「OK」ボタンをクリックします。
「IP アドレス」には、「192.168.1.xxx」(xxx は、230 を除く 1 から 254 までの値)を、「サブネットマスク」には、「255.255.255.0」を設定します。



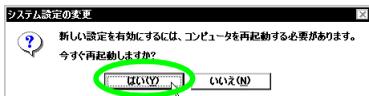
変更前の IP アドレスは、メモをとるなどして記録し、本製品の設定後に、もとの値に戻せるようにしてください。



- (6) 「OK」ボタンをクリックします。



- (7) 「はい」ボタンをクリックして、コンピュータを再起動します。



2.2 WEB からの設定変更

WEB ブラウザーを起動し、本製品の設定を変更します。

2.2.1 基本設定の変更

- (1) WEB ブラウザーを起動します。ここでは、「Internet Explorer5」を使用する場合を例として、説明します。



WEB ブラウザーは、「Internet Explorer 4.x」または「Netscape 3.x」以降をご使用ください。

- (2) 「アドレス」に「http://192.168.1.230/」と入力し、「Enter」キーを押します。

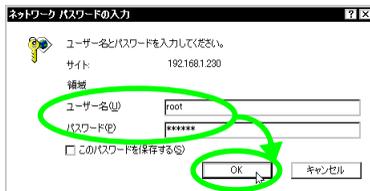


- (3) 「ユーザー名」と「パスワード」を入力して、「OK」ボタンをクリックします。

「ユーザー名」には必ず、「root」と入力します。ここでは、「パスワード」にデフォルトの「allied」を入力します。



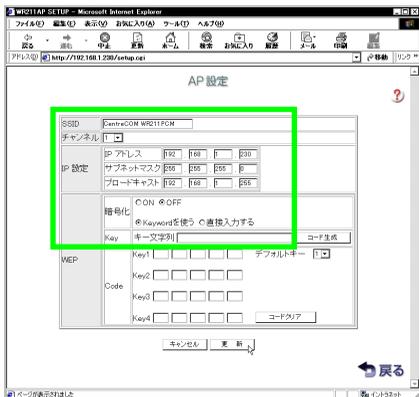
入力したパスワードは、「*」で表示されます。



- (4) 設定管理ツールの起動画面が表示されます。「AP 設定」をクリックします。



- (5) 「AP 設定」画面が表示されます。「SSID」「チャンネル」「IP 設定」「WEP」の設定を行います。
また、ここで設定した値については、忘れないように注意してください。



・「SSID」

無線 LAN ネットワークを構成するコンピュータ同士を識別する名前です。同じネットワークに属するコンピュータ同士は、同じ SSID を設定します。SSID は、半角英数 32 文字以内で設定します（大文字、小文字も区別されます）。デフォルトは、「CentreCOM WR211PCM」です。デフォルトのままでもご利用になれますが、セキュリティ対策のためには、新しい SSID を設定することをお勧めします。

・「チャンネル」

本製品と、無線 LAN カードを取り付けたコンピュータ間の無線通信で使用するチャンネルを設定します。デフォルトは、「1」です。
本製品の近くに、SSID とチャンネル設定が同じアクセスポイントが存在すると、無線 LAN カードとの通信ができなくなります。この場合には、チャンネル設定を変更してください。

・「IP 設定」

本製品の「IP アドレス」を設定します。また、本製品が属するネットワークグループの「サブネットマスク」「ブロードキャスト」を設定します。IP アドレスなどの詳細に付きましては、ネットワーク管理者に確認してください。



本製品は、「IP アドレスの自動取得」には対応していませんので、手動で IP アドレスを設定してください。



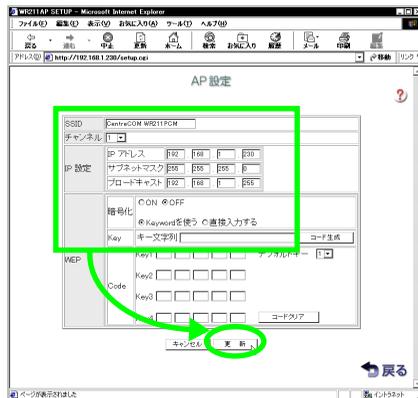
ここで設定した「IP アドレス」は、絶対に忘れないようにしてください。「IP アドレス」を忘れると、本製品にアクセスできなくなります。万が一、本製品とのアクセスができなくなった場合には、RS-232 クロスケーブルを用意して、本製品の TERMINAL ポートから設定しなければなりません。詳細については、「B TERMINAL ポートからの設定」(p.24) を参照してください。

・「WEP」

無線通信での「暗号」を設定します。暗号の設定手順については、次の「2.2.2 暗号の設定」を参照してください。

- (6) 設定を変更したら、「更新」ボタンをクリックします。設定の変更を取り消したい場合には、「キャンセル」ボタンをクリックします。

「更新」ボタンをクリックしても、本製品を再起動しないと設定は有効になりません。「更新」ボタンをクリックすると、「設定更新の確認画面」が表示されますので、「OK」ボタンをクリックして、本製品を再起動してください。



2.2.2 暗号の設定

暗号を設定する手順は、次の通りです。

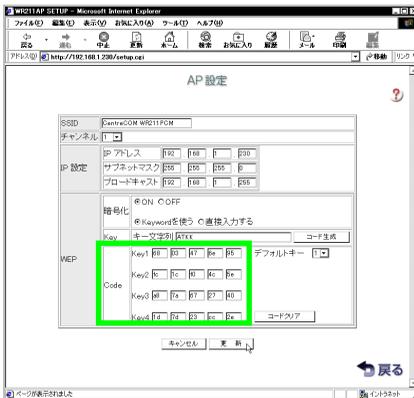


暗号化を有効にして本製品で通信を行うと、暗号化を無効にした場合の、1/2 程度の転送速度になります。

- (1) 「暗号化」の「ON」をクリックします。

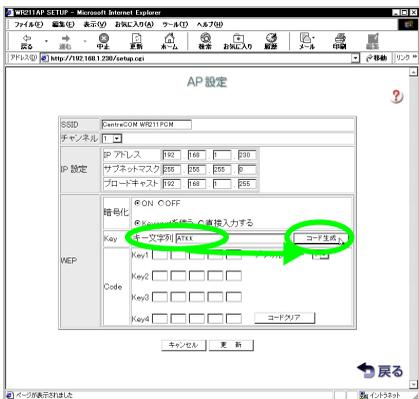


- (2) ここでは、「キー文字列」を使用して、暗号を設定する手順について説明します。
「Keywordを使う」をクリックします。



 アクセスポイントに「暗号」を設定する場合、同じ「SSID」を設定したアクセスポイントがある場合には、そのアクセスポイントにも同じ「暗号」設定を行ってください。

- (3) 「キー文字列」に任意の半角英数字を入力し、「コード生成」ボタンをクリックします。



- (5) 設定を変更する場合には、「更新」ボタンをクリックします。「更新」ボタンをクリックしても、本製品を再起動しないと設定は有効になりません。「更新」ボタンをクリックすると、「設定更新の確認画面」が表示されますので、「OK」ボタンをクリックして、本製品を再起動してください。



- (4) 「Code」に4種類のキーが表示されます。「コードクリア」ボタンをクリックすると、生成されたコードをクリアすることができます。

「WEP」で、キー文字列を入力して暗号化キーを設定する場合には、「デフォルトキー」の設定は無効です。「デフォルトキー」の設定は、キー文字列を入力せず、「key1 ~ key4」に直接数値（16進数値）を入力した場合に有効となります。

2.2.3 パスワードの設定

本製品へのアクセスを制限するために、「パスワード」を設定することができます。デフォルトの設定のままでも使用可能ですが、セキュリティ保護のためにも、必ず、新しいパスワードを設定してお使いください。

- (1) 「パスワード」をクリックします。



- (2) 「新パスワード」に新しく設定するパスワードを入力し、「パスワード確認」にも同じパスワードを入力します。「変更」ボタンをクリックすると、新しいパスワードが設定されます。
設定できるパスワードは、半角英数8文字までです。



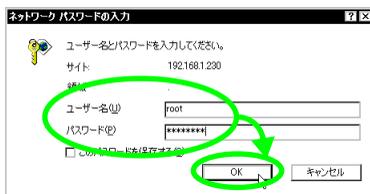
入力したパスワードは、「*」で表示されます。



注意

ここで設定した「パスワード」は、絶対に忘れないようにしてください。「パスワード」を忘れると、本製品にアクセスできなくなります。万が一、パスワードを忘れて本製品にアクセスできなくなった場合には、本製品のファームウェアをアップデートしなければなりません。この場合、本製品の設定は、初期設定に戻ってしまいます。詳細については、「5.6.1 パスワードを忘れてしまい、本製品にアクセスできない」(p.23)を参照してください。

- (3) WEB ブラウザーを終了し、新しいパスワードを入力して、本製品にアクセスし直してください。



2.2.4 設定終了

- (1) 本製品の設定が修了したら、WEB ブラウザーを終了します。
- (2) 本製品にアクセスするためにコンピュータのTCP/IPアドレスなどを変更した場合は、必ず元の設定に戻してください。



3 無線 LAN カードの設定

別売の無線 LAN カード (CentreCOM WR211PCM) を使用して、アクセスポイント経由で無線通信を行う場合は、無線 LAN カードの設定も変更する必要があります。無線 LAN カードの設定変更は、カードを取り付けたコンピュータで行います。次の 2 段階の手順を行います。

- 無線 LAN カードの設定変更
- 無線 LAN カードを取り付けたコンピュータの「ネットワーク」設定

3.1 設定を変更する前に

設定を変更する前に、無線 LAN カードを取り付けたコンピュータで、次の項目を確認してください。

- 無線 LAN カードのドライバーが正しくインストールされているか。
- 無線 LAN カードのユーティリティプログラムがインストールされているか。

ドライバーまたは、ユーティリティプログラムのインストールについては、「CentreCOM WR211PCM」のユーザーマニュアルを参照してください。

3.2 「Configuration Utility」による設定変更

3.2.1 基本設定

- タスクバーに表示されている無線アイコンをクリックします。タスクバーに表示される無線アイコンは、通信モードの設定などにより異なります。

[無線アイコンの表示例]



タスクバーに無線アイコンが表示されていない場合は、「スタート」メニューから「プログラム」 「CentreCOM WR211PCM」 「Configuration Utility」を選択すると、アイコンが表示されます。

- 「設定」タブをクリックして、各項目の設定を変更します。設定を変更したら、「設定変更する」ボタンをクリックします。



設定を変更した場合は、必ず「設定変更する」ボタンをクリックしてください。「設定変更する」ボタンをクリックしないと、設定は有効になりません。



- 「通信モード」
無線 LAN のネットワーク構成を設定します。アクセスポイントを使用してネットワーク接続する場合には、「Infrastructure」モードを選択します。
- 「SSID」
無線 LAN ネットワークを構成するコンピュータ同士を識別する名前です。同じネットワークに属するコンピュータ、アクセスポイントには同じ SSID を設定します。SSID は、半角英数 32 文字以内で設定します (大文字、小文字も区別されます)。インストール時のデフォルトは、「CentreCOM WR211PCM」です。
ここでは、アクセスポイントのデフォルトの SSID 「CentreCOM WR211PCM」に設定します。
- 「送信速度」
送信速度は、「Fully Automatic」、「1Mb」、「2Mb」、「Auto 1 or 2Mb」、「5.5Mb」、「11Mb」の中から選択できます。帯域を有効に利用し、最適な速度で通信を実行するには、デフォルトの「Fully Automatic」の設定のままでご使用ください。
- 「通信方式」
通信方式は、「Encapsulated」、「RFC1042」、「802.1h」の中から選択できます。
「Infrastructure」モード時には、「RFC1042」を選択します。
- 「暗号」
無線通信で、暗号を使用するか使用しないかを選択します。暗号を使用する場合には、「Mandatory」を選択します。暗号を使用しない場合には、「Disabled」を選択します。
「暗号」を使用する場合には、「3.2.2 「暗号」の設定」(p.15)を参照してください。
- 「省電力」
省電力機能を使用するか、しないかを選択します。省電力機能を使用する場合には、「Able」を選択し、使用しない場合には、「Disabled」を選択します。
現在は対応しておりませんので、「Disabled」のままでご使用ください。
- 「チャンネル」
「Infrastructure」モードで使用する場合は、アクセスポイントを検索するときに、使用しているチャンネルも自動的に検索しますので、設定する必要はありません。

「設定変更する」ボタンをクリックすると、同じ「SSID」が設定されているアクセスポイントを検索します。また、複数のアクセスポイントが存在する場合は、電波状態の良い方のアクセスポイントを選択します。

無線アイコンの表示は、アクセスポイントとの接続状態を示します。

[通信状態が良好な場合の無線アイコン]



[通信状態が不良な場合の無線アイコン]



[アクセスポイント検索中の無線アイコン]



3.2.2 「暗号」の設定

本製品では、無線ネットワーク上で交換されるデータを保護するために、暗号を使用することができます。暗号を使用して通信を行うためには、暗号を使用するグループのコンピュータ全てで、同じ暗号を設定する必要があります。

次に、キー文字列を設定して「暗号」を設定する手順について説明します。

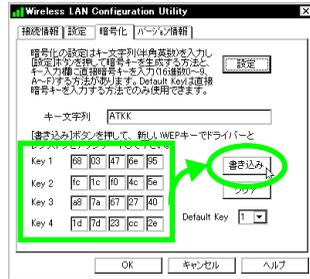


「Infrastructure」モード時に、暗号化を有効にして本製品で通信を行うと、暗号化を無効にした場合の 1/2 程度の転送速度になります。

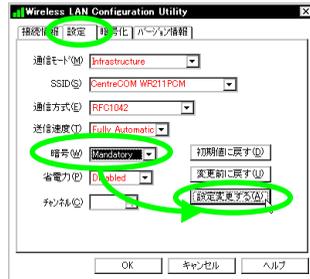
- (1) 「Configuration Utility」の「暗号化」タブをクリックします。「キー文字列」に、アクセスポイントで設定したのと同じ文字列を入力してから、「設定」ボタンをクリックします。入力した文字の大文字と小文字は区別されます。



- (2) 「key1」から「key4」に40ビットの暗号キーが表示されます。「書き込み」ボタンをクリックすると、暗号キーが設定されます。



- (3) 「設定」タブをクリックします。「暗号」で「Mandatory（暗号を使用する）」を選択し、「設定変更する」ボタンをクリックします。



- (4) これで、設定は終了です。暗号を使用して通信するには、通信を行う全てのコンピュータ、アクセスポイントに同じ設定をしなければなりません。通信するコンピュータが他にもあれば、その台数分、この設定作業を繰り返してください。ただし、暗号キーの設定後、「Configuration Utility」を終了（「Wireless LAN Configuration Utility」ウィンドウを閉じる）してから、再度、「Configuration Utility」を起動すると、「暗号化」タブには、設定したキー文字列や暗号化キーは表示されません。

「暗号化」タブで、キー文字列を入力して暗号化キーを設定する場合には、「default key」の設定は無効です。「default key」の設定は、キー文字列を入力せず、「key1 ~ key4」に直接数値（16進数値）を入力した場合に有効となります。

3.3 コンピュータの「ネットワーク」設定

ここでは、「TCP/IP」プロトコルを使用する場合の手順について説明します。

- (1) 「スタート」「設定」「コントロールパネル」を選択します。
- (2) 「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
- (3) 「ネットワーク設定」タブの「現在のネットワークコンポーネント」に、「TCP/IP」と「Microsoft ネットワーククライアント」が表示されていることを確認します。

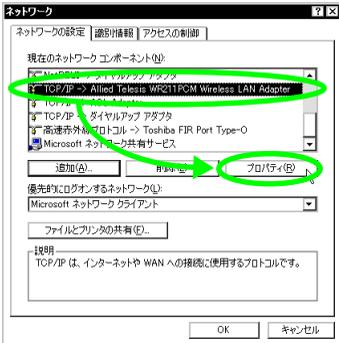


Windows95 の場合は、「現在のネットワークコンポーネント」が「現在のネットワーク構成」という表示になります。

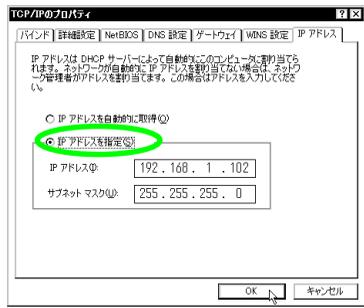


「TCP/IP」が「現在のネットワークコンポーネント」に無い場合は、「追加」ボタンをクリックし、プロトコルを追加してください。

- (4) 「TCP/IP」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。



- (5) 「IP アドレス」タブで、「IP アドレスを指定」をチェックし、IP アドレスなどを設定します。



「IP アドレスを自動的に取得」
DHCP サーバには、IP アドレスを自動的に割り当て、管理する機能があり、DHCP サーバがネットワーク上に存在する場合は、「IP アドレスを自動的に取得」を選択することができます。
無線 LAN ネットワーク上に、Windows NT サーバやダイヤルアップルータなどの DHCP サーバ機能をもった機器がない場合には、IP アドレスは手動で設定しなければなりません。無線 LAN ネットワーク上に、Windows 98/95 のコンピュータしかない場合は、DHCP サーバは存在しません。

「IP アドレスを設定」
ネットワーク上の他のコンピュータに、既に IP アドレスが割り振られている場合には、ネットワーク管理者に IP アドレスを確認してください。

3.4 ネットワーク接続の確認

ネットワーク接続に関する設定が終了したら、正しくネットワーク接続ができているかどうかを確認します。

3.4.1 アクセスポイントの通信状態の確認

WEB 上で本製品の通信状態を確認することができます。有線 LAN によって本製品に接続されたコンピュータから、本製品にアクセスして通信状態を確認します。

- (1) WEB ブラウザーを起動します。ここでは、「Internet Explorer5」を使用する場合を例として、説明します。



WEB ブラウザーは、「Internet Explorer 4.x」または「Netscape 3.x」以降をご使用ください。

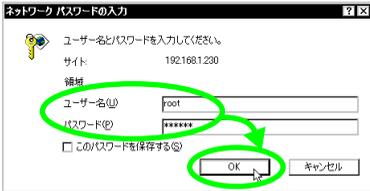
- (2) 「アドレス」に本製品の IP アドレスを入力し、「Enter」キーを押します。ここでは、本製品の IP アドレスをデフォルトのままであると仮定し、「http://192.168.1.230/」と入力します。



- (3) 「ユーザー名」と「パスワード」を入力して、「OK」ボタンをクリックします。
「ユーザー名」には必ず、「root」と入力します。ここでは、「パスワード」にデフォルトの「allied」を入力します。



入力したパスワードは、「*」で表示されます。



- (4) 設定管理ツールの起動画面が表示されます。「通信状態」をクリックします。



- (5) 有線 LAN 側と無線 LAN 側に分けて、送信 / 受信の、総パケット数と、エラーパケット数を表示します。



- (6) 「更新」ボタンをクリックすると、最新の情報が表示されます。
また、「リセット」ボタンをクリックすると、パケット数が「0」にリセットされます。



- (7) WEB ブラウザーを終了します。

3.4.2 無線 LAN カードの接続情報の確認

アクセスポイントを経由して、無線通信を行っている場合には、無線 LAN カード側から、アクセスポイントとの接続状況を確認することができます。無線 LAN カードを取り付けたコンピュータで、「Configuration Utility」を起動し、「接続情報」タブで確認します。

- (1) タスクバーに表示されている無線アイコンをクリックします。タスクバーに表示される無線アイコンは、通信モードの設定などにより異なります。

タスクバーに無線アイコンが表示されていない場合は、「スタート」メニューから「プログラム」 「CentreCOM WR211PCM」 「Configuration Utility」を選択すると、アイコンが表示されます。

- (2) 「接続情報」タブをクリックすると、アクセスポイントとの接続状態を確認できます。



- ・「BSS ID ステータス」
アクセスポイントを使用して、ネットワークが接続できていれば、接続されているアクセスポイントの MAC アドレスが表示されます。
- ・「チャンネル」
現在使用しているチャンネルが表示されます。
- ・「送信速度」
無線 LAN ネットワークを構成する機器が対応している送信速度（単位は、Mbps）が表示されます。送信速度は、「1、2、5.5、11」のうち、いずれかが表示されます。
- ・「伝送速度」
現在の送信速度(「Tx」)と受信速度(「Rx」)が表示されます。
- ・「通信状態」
現在の通信状態を、「Excellent、Good、Fair、Poor、Not Connected、Not Applicable」の 6 段階と、「%」で表示します。また、通信状態の変化を、ステレオのレベルメータのように表示します。
- ・電波状態
現在の電波の状態を、「Excellent、Good、Fair、Poor、Not Connected、Not Applicable」の 6 段階と、「%」で表示します。また、電波状態の変化を、ステレオのレベルメータのように表示します。
- ・「再検索」ボタン
このボタンをクリックすると、無線ネットワーク上のアクセスポイントを検索します。

ローミング機能

本製品は、ローミング機能（複数のアクセスポイントがある場合、電波状態により、接続するアクセスポイントを自動的に切り替える機能）に対応していますので、複数のアクセスポイント間を移動しても、再接続などの必要はありません。



ローミング中は、ネットワーク接続が切断されたり、データ転送の遅延が発生することがあります。データの送受信中（ファイルの転送中など）には、アクセスポイント間を移動しないようにしてください。

3.4.3 「ネットワークコンピュータ」から確認

- (1) 「ネットワークコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。
- (2) 「ネットワークコンピュータ」に、無線 LAN および有線 LAN で接続されているコンピュータが表示されます。



3.4.4 「Ping」で接続を確認

無線側のコンピュータから、有線側に接続されているコンピュータの IP アドレスを指定し、通信ができることを確認します。



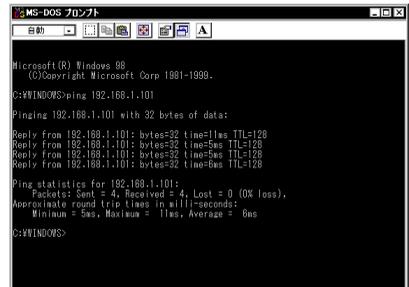
「Ping」コマンドを実行するには、TCP/IP プロトコルがインストールされていなければなりません。

- (1) コンピュータのネットワーク設定で、「TCP/IP」プロトコルの IP アドレスなどが正しく設定されていることを確認します。
- (2) 「スタート」メニューから、「プログラム」、「MS-DOS プロンプト」を選択します。
- (3) 「Ping」コマンドで、接続先のコンピュータの IP アドレスを指定し、通信できることを確認します。

コマンド入力例

C:¥WINDOWS>ping xxx. xxx. xxx. xxx
xxx. xxx. xxx. xxx の部分には、接続先のコンピュータの IP アドレスを入力します。

- (4) 正常に通信ができている場合には、次のように表示されます。ここでは、接続先のコンピュータのアドレスを、「192.168.1.101」としています。



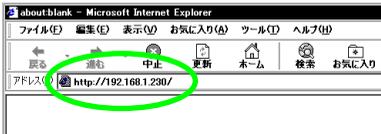
4 設定管理ツールの詳細説明

本製品は、WEB 上から、通信状態の監視や制御を行ったり、設定の変更や確認を行うことができます。ネットワークで本製品に接続されていれば、離れた位置にあるコンピュータからでも本製品にアクセスすることができるので、遠隔監視、操作が可能です。設定管理ツールの詳細について説明します。

4.1 起動方法

設定管理ツールは、次の手順で起動します。

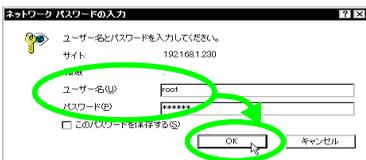
- (1) WEB ブラウザーを起動します。ここでは、「Internet Explorer5」を使用して説明します。
- (2) 「アドレス」に本製品の IP アドレスを入力し、「Enter」キーを押します。ここでは、本製品の IP アドレスをデフォルトのままであると仮定し、「http://192.168.1.230/」と入力します。



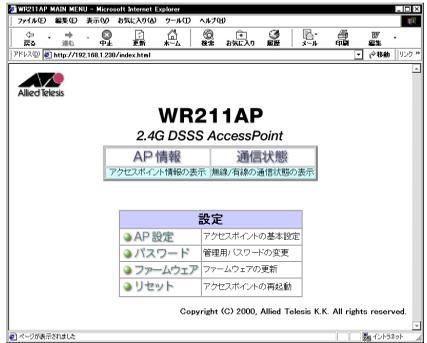
- (3) 「ユーザー名」と「パスワード」を入力して、「OK」ボタンをクリックします。「ユーザー名」には必ず、「root」と入力します。ここでは、「パスワード」にデフォルトの「allied」を入力します。



入力したパスワードは、「*」で表示されます。



- (4) 設定管理ツールの起動画面が表示されます。



4.2 AP 情報

起動画面で、「AP 情報」をクリックすると、本製品の設定情報を表示します。



表示項目の一覧は、次の通りです。

AP 情報	
WR211AP ファームウェアバージョン	本製品のファームウェアのバージョンを表示
カードバージョン	本製品に内蔵されている無線 LAN カードのバージョンを表示
SSID	本製品の SSID を表示
チャンネル番号	本製品との通信に使用しているチャンネルを表示
Mac アドレス (有線)	本製品の MAC アドレスを表示
Mac アドレス (無線)	本製品に内蔵されている無線 LAN カードの MAC アドレスを表示
IP アドレス	本製品の IP アドレスを表示
サブネットマスク	本製品の属するネットワークグループのサブネットマスクを表示
ブロードキャスト	本製品の属するネットワークグループのブロードキャストを表示
暗号	暗号の有効 / 無効を表示



「AP 情報」をクリックすると、POWER LED が消灯する場合がありますが、これは故障ではありません。

4.3 通信状態

起動画面で、「通信状態」をクリックすると、本製品の現在の通信状態を表示します。

通信状態		
有線 LAN 側		
送信	パケット数	有線 LAN 側に送信されたパケット数を表示
	エラーパケット数	有線 LAN 側の送信エラーパケット数を表示
受信	パケット数	有線 LAN 側から受信したパケット数を表示
	エラーパケット数	有線 LAN 側の受信エラーパケット数を表示
無線 LAN 側		
送信	パケット数	無線 LAN 側に送信されたパケット数を表示
	エラーパケット数	無線 LAN 側の送信エラーパケット数を表示
受信	パケット数	無線 LAN 側から受信したパケット数を表示
	エラーパケット数	無線 LAN 側の受信エラーパケット数を表示

4.4 設定

4.4.1 AP 設定

本製品で設定できる基本的な項目を設定します。設定が終了したら、「更新」ボタンをクリックします。設定の変更を取り消したい場合は、「キャンセル」ボタンをクリックします。

AP 設定		
SSID		SSID を設定
チャンネル		通信に使用するチャンネルを設定
IP 設定	IP アドレス	本製品の IP アドレスを設定
	サブネットマスク	本製品の属するネットワークグループのサブネットマスクを設定
	ブロードキャスト	本製品の属するネットワークグループのブロードキャストを設定
WEP	暗号化	ON/OFF で暗号の有効 / 無効を選択 keyword を使う / 直接入力するで、暗号キーの作成方法を選択

key	キー文字列	暗号キーを作成するための文字列を入力
Code	Default Key	使用する暗号キーの番号を選択
	key1 ~ key4	暗号キーを表示する

4.4.2 パスワード

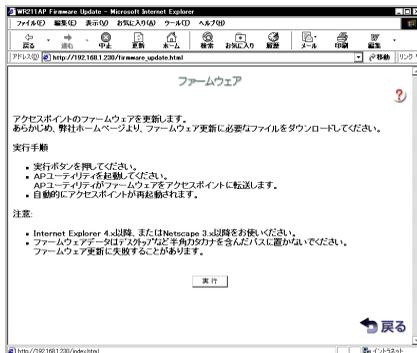
本製品の管理用パスワードを設定します。設定が終了したら、「変更」ボタンをクリックします。

パスワード	
新パスワード	新しいパスワードを設定
パスワード確認	確認のために、新しいパスワードを再度入力

4.4.3 ファームウェア

本製品のファームウェアがバージョンアップされることがあります。「ファームウェア」から、ファームウェアの更新を実行します。ファームウェアの更新手順は次の通りです。

- (1) 最新版のファームウェアと AP ユーティリティを入手します。入手方法につきましては、「E.3 最新ファームウェアの入手方法」(p.30) を参照してください。
- (2) 「実行」ボタンをクリックします。「実行」ボタンをクリックすると、本製品はファームウェア更新待ち状態になります。



- (3) AP ユーティリティ「upcli.exe」を起動します。AP ユーティリティがファームウェアを本製品に転送し、再起動します。
- (4) 再起動後は、本製品は工場出荷時の設定に戻ります。「IP アドレス」がデフォルトの設定に戻ってしまい、本製品に正しくアクセスできない場合には、一度、WEB ブラウザーを終了してから、改めて本製品にアクセスしてください。



「Internet Explorer 3.x」では、ファームウェア更新は実行できません。「Internet Explorer 4.x」または「Netscape 3.x」以降をご使用ください。



更新用のデータは、「デスクトップ」など半角カタカナを含んだディレクトリには置かないでください。ファームウェアの更新に失敗することがあります。

4.4.4 リセット

本製品を再起動します。

(1) 「再起動」ボタンをクリックします。



(2) 本製品の再起動には、2 ~ 3 分程度の時間がかかります。再起動中は、LED が順番に点灯します。最後に POWER LED が点灯するまでお待ちください。

5 トラブルシューティング

ここでは、本製品使用中のトラブルの代表的な例と、その対処方法について説明します。主な現象ごとに、その原因と対応方法を説明していますが、よく分からない場合には、次の手順で本製品の状態を確認しながら、トラブルを解決してください。

- 1 本製品の設定画面は表示されますか？
- 2 無線カードを付けたコンピュータと接続できますか？
- 3 コンピュータのネットワーク設定は正しいですか？

5.1 設定画面が表示されない

5.1.1 有線側のコンピュータと接続できない

原因 1

Power LED が点灯していない。

対応方法

本製品の電源を確認します。AC アダプターが本製品とコンセントに正しく接続されているかどうかを確認します。

原因 2

接続先機器(ハブまたはスイッチ)の LINK LED が点灯していない。

対応方法

次の項目を確認してください。

- ・ 接続先の機器(ハブまたはスイッチ)の電源は入っているか。
- ・ UTP ケーブルが正しく接続されているか。
- ・ 接続先機器の通信速度は正しく設定されているか。

原因 3

有線側のコンピュータに LAN アダプターのドライバーが正しくインストールされていない。

対応方法

LAN アダプターのユーザーマニュアルを参照して、ドライバーをインストールし直してください。

原因 4

TCP/IP プロトコルがインストールされていない。または設定が正しくない。

対応方法

「2.1 コンピュータの設定」(p.9)を参照し、TCP/IP の設定を確認します。

5.1.2 設定画面が表示されない

原因 1

本製品の設定変更を行うコンピュータの「IP アドレス」の設定が正しくない。

対応方法

「2.1 コンピュータの設定」(p.9)を参照し、正しく IP アドレスを設定してください。

原因 2

WEB ブラウザーに指定した、本製品の「IP アドレス」の設定が正

しくない。

対応方法

本製品の IP アドレスを確認し、アドレスに正しく入力します。デフォルトの設定では、「http://192.168.1.230/」と入力します。

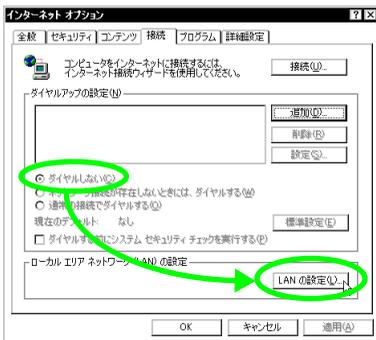
原因 3

WEB ブラウザの設定で、プロキシの設定がされている。または、モデムを使用してダイヤルするように設定されている。

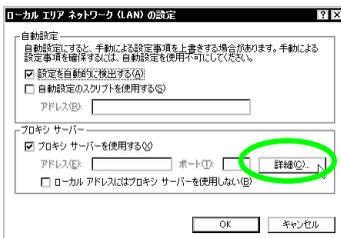
対応方法

プロキシを使用しない設定に変更します。また、ダイヤルしない設定に変更します。次の手順で設定を変更します。ここでは、「Internet Explorer5」を使用する場合を例として説明します。

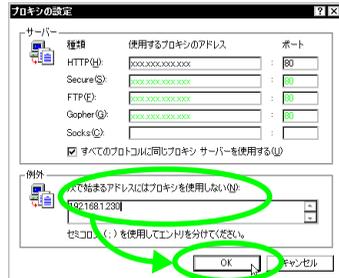
- (1) 「Internet Explorer5」を起動します。
- (2) 「ツール」メニューから「インターネットオプション」を選択します。
- (3) 「ダイヤルしない」をクリックし、「LAN の設定」ボタンをクリックします。



- (4) 「詳細」ボタンをクリックします。



- (5) 「次で始まるアドレスには、プロキシを使用しない」に、本製品の IP アドレスを入力し、「OK」ボタンをクリックします。ここでは、本製品の IP アドレスが初期設定のままであるとし、「192.168.1.230」を入力します。



5.2 無線 LAN カードを付けたコンピュータと接続できない

5.2.1 無線 LAN カードのドライバーが正しくインストールされていない

原因 1

無線 LAN カードのドライバーが正しくインストールされていない。

対応方法

「CentreCOM WR211PCM」のマニュアルを参照し、無線 LAN カードのドライバーを正しくインストールします。

原因 2

電波状態が悪い

対応方法

本製品を取り付けたコンピュータとの距離を短くしたり、障害物をなくして見通しを良くしてから、再度通信してください。

5.2.2 無線 LAN カードとアクセスポイントの設定が合っていない

次に説明する原因と対応方法を参照して、無線 LAN カードの設定を「Configuration Utility」で、正しく設定し直してください。

原因	対応方法
無線 LAN アイコンが  の場合	
アクセスポイントの電源は入っていますか？	アクセスポイントの電源をオンにしてください。
アクセスポイントが見通せる位置に設置されていますか？	無線 LAN カードを取り付けたコンピュータとアクセスポイントの距離を近づけたり、障害物をなくして見通しを良くしてください。

無線アイコンが  の場合	
「通信モード」は「Infrastructure」ですか？	アクセスポイントを使用して通信を行うには、「通信モード」を「Infrastructure」に設定します。
「SSID」の設定は、合っていますか？	無線 LAN カードを取り付けたコンピュータとアクセスポイントの「SSID」には、同じ文字列を設定します。
「暗号」設定は、合っていますか？	無線 LAN カードを取り付けたコンピュータとアクセスポイントの暗号設定は、同じ設定にします。

5.3 「ネットワークコンピュータ」に他のコンピュータが表示されない

原因 1

ネットワークの設定が正しくない。

対応方法

必要なプロトコルがインストールがされているか、コンピュータの識別情報が正しく設定されているか、共有設定が正しくなされているかを確認し、正しく設定し直します。無線 LAN カードを取り付けたコンピュータのネットワーク設定については、「CentreCOM WR211PCM」のマニュアルを参照してください。

原因 2

TCP/IP プロトコルがインストールされていない。または設定が正しくない。

対応方法

「2.1 コンピュータの設定」(p.9)を参照し、TCP/IP の設定を確認します。

原因 3

ネットワークパスワードを入力していない。

対応方法

コンピュータを再起動して、ネットワークパスワードを入力します。

5.4 正常に動作しない

原因 1

ご使用のコンピュータのパワーマネージメント機能、サスペンドレジューム機能が動作している。

対応方法

パワーマネージメント機能、サスペンドレジューム機能の設定を OFF (無効) にしてください。(詳細については、コンピュータのマニュアルを参考にしてください。)

原因 2

本製品の再起動が正しく終了しない。

対応方法

本製品の再起動が正しく終了した場合は、本体前面にある LED が順に点灯し、最後に POWER LED が点灯します。設定管理ツールで設定を変更した後や、ファームウェアの更新後に本製品を再起動

した場合に、再起動が正しく終了しなかった場合には、電源を再投入してください。

5.5 無線 LAN 通信ができなくなった

これまで、本製品と無線 LAN カード間の通信ができていたのに、突然通信ができなくなってしまった場合には、次のような原因が考えられます。

原因

SSID とチャンネル設定が同じアクセスポイントが、本製品の近くに存在するため、無線 LAN カードがアクセスポイントを検出できなくなり、通信することができない。

対応方法

ネットワーク管理者に確認し、どちらかのアクセスポイントのチャンネル設定を変更してください。

5.6 本製品にアクセスできない

5.6.1 パスワードを忘れてしまい、本製品にアクセスできない

本製品へのアクセスを制限するために、パスワードを設定することができます。このパスワードを忘れてしまうと、本製品にアクセスすることができません。

万が一、パスワードを忘れてしまった場合には、TERMINAL ポートから、ファームウェアをダウンロードしなければなりません。この場合、RS-232 クロスケーブルが必要になります。また、ファームウェアをダウンロードすると、本製品の設定は、全て初期設定に戻ってしまいます。

ファームウェアのダウンロードは、ファームウェアの「README」ファイルを熟読してから実行してください。

5.6.2 本製品の IP アドレスを忘れてしまい、アクセスできない

本製品の IP アドレスを忘れてしまうと、WEB 上から本製品にアクセスして設定を変更することができなくなります。この場合には、TERMINAL ポートとコンピュータを接続して、本製品の設定を変更することができます。

TERMINAL ポートからの設定手順については、「B TERMINAL ポートからの設定」(p.24)を参照してください。

A 付録

A.1 製品仕様

無線部	
規格	国際規格 IEEE 802.11、802.11b 国内規格 RCR STD-33、 ARIB STD-T66
周波数帯域	2.4GHz
変復調方式	DS-SS 方式
情報変換方式	CCK、DQPSK、DBPSK
アクセス制御方式	CSMA/CA
データ転送速度	11/5.5/2/1 Mbps 自動切り替え
サービスエリア	屋外 150m、屋内 50m (11Mbps 通信時は、屋外 60m、屋内 30m)
スクランブル処理	WEP (RC4)
空中線電力	2mW/MHz
アンテナ形式	誘電体アンテナとスロットアンテナ
アンテナダイバーシティー	空間ダイバーシティー
有線部	
サポート規格	IEEE802.3
インタフェース	10BASE-T (MDI)
データ伝送速度	10Mbps
アクセス方式	CSMA/CD
電源部	
入力電圧	AC 100V (AC アダプターによる、外部電源型)
最大消費電力	7W
平均消費電流	0.8A
平均発熱量	4.47kcal/h
環境条件	
保管時温度	-10 ~ 60
保管時湿度	80% 以下 (ただし結露なきこと)
動作時温度	0 ~ 40
動作時湿度	80% 以下 (ただし結露なきこと)
外形寸法	
	142(W) × 176(D) × 40(H) (突起部含まず)
重量	
	本体 約 370g
取得承認	
EMI 規格	VCCI クラス B

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

A.2 MAC アドレス

イーサネットに接続される機器は、MAC アドレスと呼ばれるアドレスを使って通信を行います。MAC アドレスは機器 (アダプター) のひとつひとつに割り当てられた唯一無二の (unique、ユニークな) アドレスです。

MAC アドレスは、下記の 6 バイト (48ビット) によって構成されており、本製品の内部に書き込まれているため、ユーザーが変更することはできません。本製品の MAC アドレスは、製品に貼付されている MAC アドレスラベルに記入されています (表記は全て 16 進数)。

00 90 99 21 xx xx
ベンダーID 通し番号

• ベンダー ID
LAN ベンダー (LAN 用機器を製造しているメーカー) が IEEE に申請することにより得られる識別番号です。

• 通し番号
この番号は、当社が製品を識別するために割り当てたもので、本製品は、「21 D0 00」から始まる 6 桁の数値となっています。この通し番号と本製品の「シリアル番号ラベル」の番号に関連はありません。



MAC アドレス (マックアドレスと読みます) は、物理アドレス、ネットワークアドレス、イーサネットアドレスなどと呼ばれることもあります。また、MAC アドレスは、TCP/IP の環境で使用される IP アドレスに関係がありますが、これらは別々のものです。

B TERMINAL ポートからの設定

ここでは、本製品の TERMINAL ポートとコンピュータを接続して、本製品の設定を変更する手順について説明します。

B.1 用意するもの

- RS-232 クロスケーブル
- 「ハイパーターミナル」等のターミナルソフト (Windows98/95 標準装備)

B.2 本製品とコンピュータの接続

- (1) 本製品のターミナルポートに、RS-232 クロスケーブルの 9 ピンメスの D-Sub コネクターを接続します。

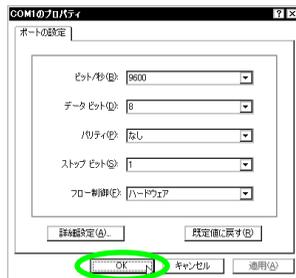
(2) コンピュータの RS-232 コネクタ (Com1) に、RS-232 ケーブルのもう一端 (ご使用のコンピュータの RS-232 コネクタに適合するもの) を接続します。

(4) 「Com1 のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。各項目は次の図のように設定し、「OK」ボタンをクリックします。

B.3 ターミナルソフトの設定と起動

ここでは、Windows98 に標準装備されている「ハイパーターミナル」を使用する場合を例として、説明します。

(1) 「スタート」メニューから、「プログラム」 「アクセサリ」 「通信」 「ハイパーターミナル」を選択します。「HyperTerminal」フォルダの、「Hypertm.exe」アイコンをダブルクリックして起動します。



(5) 手順 (2) で指定した、「名前 - ハイパーターミナル」ウィンドウが表示されたら、「Enter」キーを押します。



(2) 「環境の設定」ダイアログボックスで、「名前」を入力し、適切なアイコンを選択して、「OK」ボタンをクリックします。モデムのインストールをするかどうかを尋ねるダイアログボックスが表示された場合は、「いいえ」をクリックします。



(6) 「login」画面が表示されます。「login:」の後に「root」と入力し、「Enter」キーを押します。



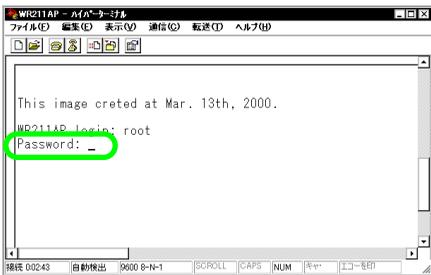
(3) 「接続の設定」ダイアログボックス (Windows95 では、「電話番号」ダイアログと表示される) の「接続方法」で「Com1 へダイレクト」を選択して、「OK」ボタンをクリックします。



間違って入力した文字を修正したい場合、次の手順で設定を変更すると、「BackSpace」キーで 1 文字削除ができるようになります。

「ファイル」メニューから「プロパティ」をクリックし「WR211AP のプロパティ」を表示します。「設定」タブの、「BackSpace キーの使い方」で「Delete(D)」をクリックします。

- (7) 「password:」の後に、現在設定されているパスワードを入力し、「Enter」キーを押します。
デフォルトのパスワードは、「allied」です。



入力したパスワードは、画面に表示されません。

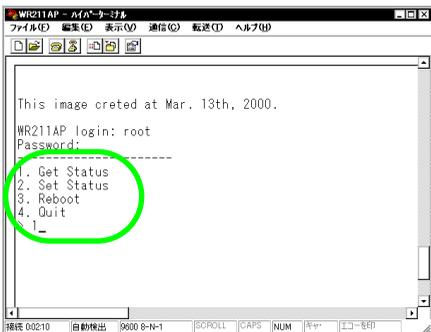
B.4 本製品の設定

パスワードを入力するとメニュー画面が表示されます。TERMINALポートからの設定で実行できる項目は、次の通りです。

- ・ 情報表示
- ・ 設定変更
- ・ 再起動

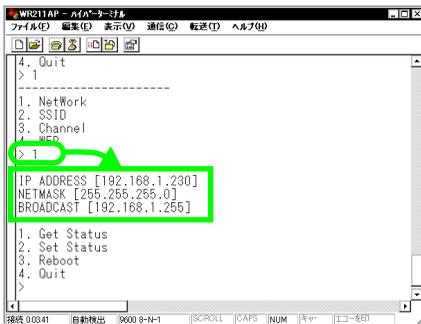
B.4.1 情報表示

- (1) 本製品の設定情報を表示するには、メニュー画面で、「1」を入力し、「Enter」キーを押します。

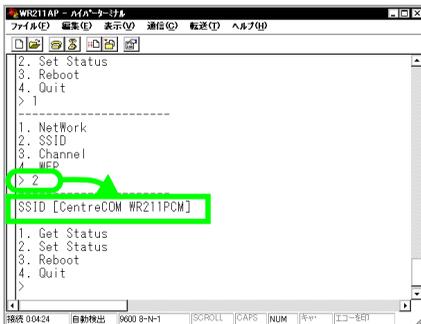


- (2) メニューが表示されますので、参照したい項目の番号を入力し、「Enter」キーを押します。
ここで参照できる項目は、次の4項目です。

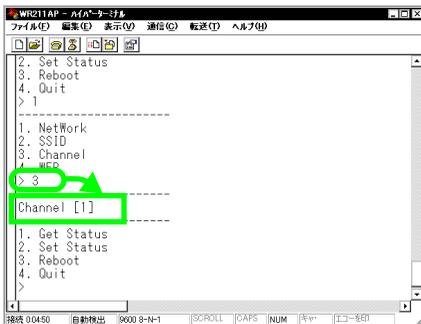
- ・ 「Network」
「1」を選択すると、本製品の「IP アドレス」、「サブネットマスク」、「ブロードキャスト」を表示します。



- ・ 「SSID」
「2」を選択すると、本製品の「SSID」を表示します。

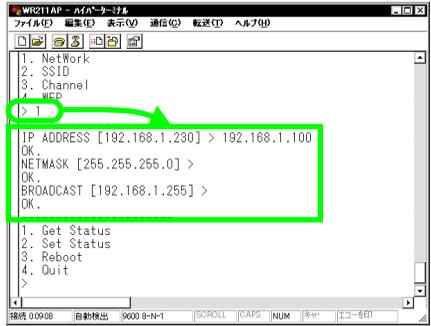
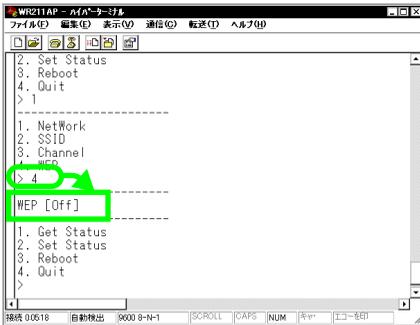


- ・ 「Channel」
「3」を選択すると、本製品との通信に使用しているチャンネルを表示します。



・「WEP」

「4」を選択すると、暗号設定の有効/無効を表示します。

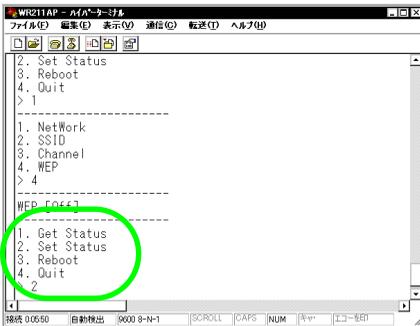


・「SSID」

「2」を入力すると、本製品の「SSID」を変更できます。

B.4.2 設定変更

(1) 本製品の設定を変更するには、メニュー画面で、「2」を入力し、「Enter」キーを押します。



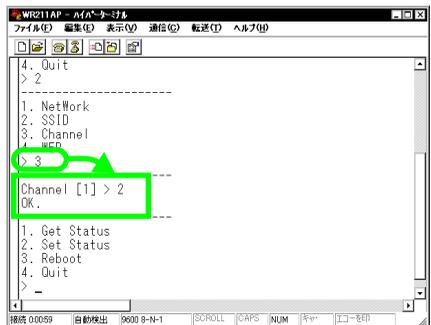
(2) メニューが表示されますので、変更したい項目の番号を入力し、「Enter」キーを押します。
現在設定されている値が表示されますので、その後に、新しい設定を入力し、「Enter」キーを押します。
設定できる項目は、次の4項目です。

・「Network」

「1」を入力すると、本製品の「IP アドレス」、「サブネットマスク」、「ブロードキャスト」を変更できます。ここでは例として、「IP アドレス」だけを変更します。設定を変更しない場合は、「Enter」キーだけを押します。

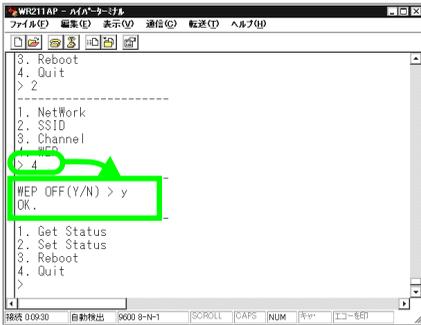
・「Channel」

「3」を入力すると、本製品との通信に使用しているチャンネルを変更できます。

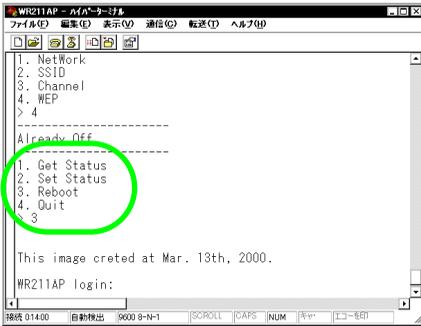


・「WEP」

「4」を入力すると、暗号設定が有効になっている場合に、暗号設定を無効に変更することができます。無効にしたい場合は、「y」と入力します。



- (3) 設定を変更した後は、必ず本製品を再起動してください。本製品を再起動するには、メニュー画面で、「3」を入力します。本製品の再起動には、しばらく時間がかかります。本体のLEDが順に点灯し、最後に Power LED が点灯して再起動が終了するまで、お待ちください。



B.4.3 設定終了

本製品との接続を終了したい場合には、メニュー画面で、「4」を入力し、「Enter」キーを押します。ターミナルソフトを終了します。



C 用語集

C.1 本製品の設定に関する用語

AdHoc

「AdHoc」モードは、無線 LAN ネットワーク構成の 1 つで、無線 LAN カードを取り付けたコンピュータ同士でネットワークを構成する場合に使用します。コンピュータ同士は、ピアツーピアで接続され、お互いのリソースを共有することができます。

Infrastructure

「Infrastructure」モードは、無線 LAN ネットワーク構成の 1 つで、アクセスポイントを使用し、有線ネットワークと無線ネットワークを結合し 1 つのネットワークとして構成する場合に使用します。

SSID

「SSID」(Service Set Identifier)は無線 LAN ネットワークを構成するコンピュータ同士を識別する名前です。同じネットワークに属するコンピュータまたはアクセスポイントは、同じ SSID を設定しなければなりません。「SSID」は、半角英数字 32 文字以内(大文字、小文字も区別される)で設定します。(「SSID」の設定は、「Infrastructure」モードの場合に有効です。)

通信方式

デフォルトでは、IEEE802.11 の周波数変換方式の RFC1042 モードが設定されています。古い無線 LAN のシステムと接続する場合は、ドロップダウンリストから他の通信方式を選択します。

送信速度

送信速度は、無線 LAN ネットワークを構成するコンピュータが対応している速度から選択することができます。帯域を有効に利用し、最適な速度で通信を実行するには、「Fully Automatic(送信速度自動設定)」に設定しておきます。「Fully Automatic」に設定すると、送信速度はネットワークを構成するコンピュータに合わせて自動的に調整され、最適な速度で通信できるようになります。

暗号

本製品は、無線ネットワーク上で交換されるデータを保護するために、暗号を使用することができます。WEP (Wired Equivalent Privacy) という暗号化方式を使用しています。WEP では、40 ビットの組み合わせからなるキーを使用し、ネットワークへのアクセスをコントロールします。また、データの送信ごとに暗号化することによって、データの安全性を確保します。送信されたデータを解読するには、無線ネットワーク上のコンピュータにも、同じキーを設定しておかなければなりません。

チャンネル

無線 LAN 通信で使用される、IEEE802.11 のデフォルトのチャンネルを設定します。

ローミング機能

複数のアクセスポイントがある場合、電波状態により、接続するアクセスポイントを自動的に切り替える機能です。アクセスポイント間を移動しても、再接続などの必要はありません。

C.2 ネットワーク関連の用語

ピアツーピア接続

コンピュータ同士が、1対1で対等に行う通信です。サーバーとクライアントのように機能を分化せず、お互いの機能を利用して通信を行い、ファイルやプリンタなどの資源を共有することができます。

Microsoft ネットワーククライアント

Windows 98/95 などのサーバーサービスを利用するためのクライアントソフトウェアです。通常、プロトコルには、「NetBEUI」が使用されます。

NetBEUI プロトコル

小規模のネットワークトランスポートプロトコルです。NetBEUIは、OSI参照モデルのトランスポート層およびネットワーク層プロトコルに相当します。これを、NetBIOSと統合することにより、ワークグループ LAN 環境で効率的な通信システムが実現されます。Windows 98/95 でサポートされています。

TCP/IP プロトコル

インターネットで使用されているプロトコルで、OSI参照モデルのトランスポート層およびネットワーク層プロトコルに相当します。TCP/IP プロトコルを使用すると、異なるプラットフォームのコンピュータ同士でも通信することができます。

無線 LAN

配線を必要としない LAN (Local Area Network) のことです。1つの建物内や敷地内など、比較的狭い範囲で、電波や赤外線、レーザーを使用してネットワークを構築します。

アクセスポイント

無線 LAN と有線 LAN ネットワーク上にあるコンピュータが通信するための装置です。

D 保証

本製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」をお読みになり、「お客様インフォメーション登録カード」に必要な事項を記入して、当社「お客様インフォメーション登録係」までご返送ください。「お客様インフォメーション登録カード」が返送されていない場合、障害発生時のユーザーサポートや修理などを受けられません。

保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害（人の生命・身体に対する被害、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない）については、弊社はその責をいっさい負わないこととします。

E ユーザーサポート

障害回避などの技術的なサポートを受ける場合は、巻末の「調査依頼書」をプリントアウトしたものに必要事項を記入し、下記にファクスしてください。できるだけ電話による直接の問い合わせは避けて

ください。ファクスによって詳細な情報を送付していただく方が、電話による問い合わせよりもより早く問題を解決することができます。記入内容の詳細については「E.1 調査依頼書のご記入にあたって」をご覧ください。なお、都合によりご連絡が遅れることもございますので、予めご了承ください。

アライドテレシス株式会社 サポートセンター

Tel: ☎ 0120-860-772

月～金（祝・祭日を除く）9:00-12:00 13:00-18:00

土（祝・祭日を除く）10:00-17:00

Fax: ☎ 0120-860-662

年中無休 24 時間受け付け

E.1 調査依頼書のご記入にあたって

調査依頼書は、お客様のご使用環境で発生した様々な障害の原因を突き止めるためにご記入いただくものです。障害を解決するためにも以下の点にそって、十分な情報をお知らせください。記入用紙で書き切れない場合には、別途プリントアウトなどを添付してください。

ハードウェアとソフトウェア

1. ご使用製品のシリアル番号、製品リビジョン

本製品に貼られたシリアル番号ラベルのシリアル番号 (S/N)、製品リビジョンコード (Rev.) を調査依頼書に記入してください。また、本製品のファームウェアのバージョンもご記入ください。

(例) 

2. ご使用のコンピュータの機種

ご使用になっているコンピュータのメーカー名、機種名をご記入ください。また、ご使用の OS についてもご記入ください。

お問い合わせ内容

- どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかをできる限り具体的に（再現できるように）記入してください。
- 障害などが発生する場合には、本製品と併用されているユーティリティや、アプリケーションの処理内容もご記入ください。
- AUTOEXEC.BAT、CONFIG.SYS、バッチファイルに関しては、そのファイル内容のプリントアウトを必ず添付してください。
- エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容のプリントアウトなどを添付してください。
- Windows95/98 の場合、お手数ですが、可能な限りシステムレポート（OS が自動生成するシステムに関するレポート、

名称はOSによって異なります)を出力し、添付いただきますようお願いいたします。

接続の構成図

- ・ ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。

E.2 システムレポートの出力方法

システムレポートは、Windows95/98が自動生成するシステムに関するレポート(名称はOSによって異なります)で、以下の手順で印刷することができます。

- (1) コントロールパネルから「システム」を起動し、「デバイスマネージャ」タブを表示します。
- (2) 「印刷(N)...」ボタンをクリックします。
- (3) 「レポートの種類」では「すべてのデバイスとシステムの概要(A)」を選択してください。以後、画面の指示にしたがってください。

```
システムレポート - ページ : 1
----- システムの概要 -----
Windowsバージョン : 4.00.950
コンピュータ名 : 不明
CPUの種類 : Pentium
システムスの種類 : ISA
BIOS名 : Phoenix
BIOSの日付 : 01/08/97
BIOSのバージョン : Phoenix NoteBIOS Version 4.05
コンピュータの種類 : IBM PC/AT
数値コピレザ : Not Present
登録オーナー : X X X X X X
登録会社 : X X X X X X
----- IRQの概要 -----
IRQの使用 :
00 - システムタイマ
01 - 106 日本語 (A01) キーボード (Ctrl+英数)
02 - プリンタポート 可能な割り込みコントローラ
03 - 通信ポート (COM2)
04 - 通信ポート (COM1)
05 - ESI878 Plug and Play AutoDrive
06 - ステータスポート (LPT1)
07 - システム CMOS/リアルタイムクロック
08 - Texas Instruments PCI-1130 CardBus Controller
10 - PCIステータスポート IRQ 番号 -
10 - PCIステータスポート IRQ 番号 -
```

図E.2.0.1 システムレポートの出力例 (Windows95の場合)

E.3 最新ファームウェアの入手方法

当社は、改良などのために予告なく、本製品のファームウェアのバージョンアップやパッチレベルアップを行うことがあります。最新のファームウェアは、次の2つの方法で入手することができます。

ホームページからの入手

- (1) Internet Explorer、Netscape NavigatorなどのWebブラウザを使用して、アライドテレシスのホームページ「http://www.allied-teleasis.co.jp/」にアクセスします。
- (2) 「サポート」の「ダウンロード」をクリックしてください。
- (3) 「製品一覧リスト」から選択してください。

F ご注意

- ・ 本マニュアルは、アライドテレシス(株)が作成したもので、全ての権利をアライドテレシス(株)が保有しています。アライドテレシス(株)に無断で本書の一部または全部を複製することを禁じます。
- ・ アライドテレシス(株)は、予告なく本マニュアルの一部または全体を修正、変更することがありますのでご了承ください。
- ・ アライドテレシス(株)は、改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- ・ 本製品の内容またはその仕様に関して発生した結果については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

©2000 アライドテレシス株式会社

G 商標について

CentreCOMはアライドテレシス株式会社の登録商標です。Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標です。その他、この文書に掲載しているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。

H マニュアルバージョン

2000年5月 Rev.A 初版
2000年6月 Rev.B 仕様変更

ネットワーク構成図

別紙あり 別紙なし

簡単なもので結構ですので、ご記入をお願いします。